

トピックス1

「川崎・富川^{フチョン}高校生フォーラム 〈ハナ〉」に参加しませんか

神奈川県立麻生高校教諭
首都大学東京非常勤講師
風巻 浩

「シージャギ・パニダ（生まれれば半分）」

「私たちのチング（親友）になってください！」
韓国市民の前で涙ながらにTさんが訴えたのは、
2000年の夏だった。前日、日本軍「慰安婦」とさ
れたハルモニたちが暮らす「ナヌムの家」を訪問し
たあと、ある集会で僕の知らないうちに飛び入りで
発言した教え子の声は、今も僕の心の中で何かを燃
やし続けている。

2000年の6月末、夏休みはもうすぐという時に、
ホームステイを受け入れるので韓国に来てみません
か、という韓国富川市の高校生自身からの提案があ
った。その10年ほど前、高校生13人とバングラデ
シュの農村に入り、その後、自分でもベトナムに高
校生を連れていっていた経験があった。そのような
「スタディーツアー」の持つ教育的効果を実感して
いたので、さっそく顧問をしていたボランティア部
の生徒に呼びかけた。前述のTさんを含め2人の
教え子が訪韓することになった。これが10年も続
く「川崎・富川高校生フォーラム〈ハナ〉」（以下
〈ハナ〉）の始まりとなっていく。

その年の冬に、今度は川崎での受け入れとなった。
川崎市内の高校生と、富川市の高校生、そしてT
さんの呼びかけもあり参加が実現した神奈川朝鮮高
級学校生が実行委員会を作った。日本人、韓国人、
在日コリアンの三者交流としての〈ハナ〉が活動を
開始した。ミレニアム最初のクリスマスに、北東ア
ジアの片隅に小さな光が灯った瞬間だった。

どんなことをしてきたか？

事前にテーマを設定してフォーラムで報告し討論
する。テーマにあわせフィールドワークをおこなう。
最後に振り返りをする。前半はホームステイで後半
は合宿。そんなスタイルが定着している。夏には富



38度線近くの非武装地帯、^{フチョン}鉄原にある朝鮮労働党庁舎跡。朝鮮戦争の傷跡がそのまま残る。08年の第17回交流会のフィールドワークで訪れた。

川市、冬には川崎市での年2回の交流だ。

これまでフィールドワークで訪れたところは、韓
国ではナヌムの家（実教出版「008 高校日本史 A
新訂版」175 ページに〈ハナ〉の活動とともに紹介さ
れている）の他、統一展望台、^{ソナムン}西大門刑務所歴史館、
富川市の隣町である仁川市富平^{フビョン}にあった（今は取り
壊されてしまった）植民地時代の住居群など。日本
では、在日をテーマとして、川崎の多住地域桜本や
河川敷の集住地域戸手、靖国神社、関東大震災のテ
ーマで横浜などである。フォーラムのテーマも教科
書問題、在日コリアンの問題など堅いものから、食
文化や遊びまで多様な取り組みをしてきた。自分た
ちで歴史を掘り起こそうと、在日コリアン一世のハ
ルモニへの聞き取り調査もおこなった。朝鮮学校の
生徒が翻訳をして、このテキストは日韓両言語にな
っている。近現代日朝関係史の副読本として、日本、
韓国の学校での使用が可能だ。

「日本は他国にとんでもない事をしてきた——私
はこの夏、〈ハナ〉でのフィールドワークを通し、
そう考えざるをえない状況におちいりました。同時
に、日本の歴史教科書では学べない事実が数多く存
在することを痛感し、気づきました。」1年生で初
めて〈ハナ〉に参加したNさんは西大門刑務所歴
史館でショックを受けるが、手をつなぎあう韓国
〈ハナ〉のチングの暖かさに安心感を取り戻し、さ
らに学んでいこうと強く誓った。「私の目標・夢は、
“今”から逃げず、色んなことに関心を持つこと
です。なぜなら、周りには、色々な国の人々が生き
ているのだから…。」



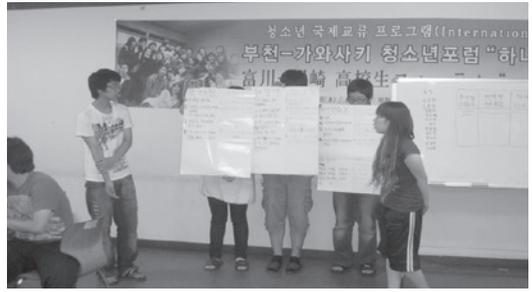
(写真上) グループに分かれて討議をおこなう。通訳はハナ OBOG の大学生がするようになった。
 (写真下) ハングルと日本語で班の意見をまとめていく。右上が筆者。

テレビでの紹介も何度かあった。2002年には、『NHK スペシャル 21世紀・日本の課題・新しい歩み』がはじまった～日韓共同作業・現場からの報告』の中で紹介された。また2005年には、フジテレビ NONFIX で『シリーズ終戦60年企画——行ってみよう 見てみよう！ 歴史をめぐる日韓交流記』として紹介された。(授業で利用されたい方は、next-asia@kazamaki.net までご連絡ください。)

存亡の危機もあった。2001年の教科書問題の「とばっちり」で富川市役所が交流延期を要請したり、「国家保安法」を理由に(原則を言えば、まだ法律そのものは残っている)、朝鮮籍(もちろんこれは「共和国籍」ということではない)の在日コリアンの参加に反対する韓国側の生徒がいて韓国〈ハナ〉が分裂しかかったり、その都度、〈ハナ〉のメンバーの努力や周囲の市民サポーターの尽力で活動を継続してきた。朝鮮籍在日コリアンの訪韓そのものも、最初は実現できないのではないかと考えていた。これは2002年から実現している。

〈ハナ〉は私のすべて！

韓国〈ハナ〉の感想を紹介しよう。「〈ハナ〉活動で出会った子たちは、ニュースで見る日本人とは違う人たちなんです。例えば、今回の冬〈ハナ〉で撮影のために靖国神社に行ったのですが、その神社の案内人が「韓国人が第2次世界大戦で



熱気のこもった討論のあと、模造紙にまとめて発表

『志願』した」とか、「創氏改名を自発的にした」とか言いながら、私たちをちょっと挑発したんです。何かその人に言い返してやろうとしたら、私たちが言い出す前に、まず(日本〈ハナ〉の)M君とSオンニ(女性からみた女性の先輩)が「その時は植民地の状況だったのに、本当に韓国人が志願兵になったといえるのか」、「ちょっと(理屈に)合わない話みたいだ」と先に興奮(?)して闘ってくれる姿を見て……本当に感動して涙が“ピン”と……。ハハ。私が出会った子たちはそういう子たちなんです。」

1年生で初めて〈ハナ〉に参加した時、彼女は「私は日本が嫌い」と明言して、僕をびっくりさせた。韓国ハナのメンバーには日本のポップカルチャーが大好きで参加したという生徒も多く、彼女のような存在は少数派ともいえるのだが、直接会うことによって、そして靖国神社での説明に自分のことのように食い下がっていった日本〈ハナ〉のメンバーとチングになっていくことで、彼女の心は大きく変化していった。

コンフリクトを越え真の友人(チング)に

彼女のように「日本が嫌い」という生徒がいたり、マスコミの北朝鮮報道に引きずられてしまう日本の生徒がいたり、在日コリアンへの差別にあまり意識のない韓国の生徒がいたり、様々なコンフリクトが〈ハナ〉には存在する。しかし、そのような「しがらみ」を意識し、それを乗り越えていくからこそ、チングとなっていくのだ。

付記：川崎市の高校でなくても高校生の年代なら誰でも参加できます。ぜひ、関心のある若者をご紹介します。横浜駅近くの「県民サポートセンター」で平日夜に準備会をおこなっています。

(本文は、「もっと知ろう 韓国・朝鮮—社会と文化30話」歴史教育者協議会編 に加筆・訂正したものです。)